



令和3年10月23日

報道関係者 各位

アジア宗教者平和会議（ACRP/RfP Asia）
世界宗教者平和会議（WCRP/RfP）日本委員会

第9回アジア宗教者平和会議(ACRP／RfP Asia)東京大会 閉幕

10月19日から東京・杉並区の立正佼成会法輪閣を拠点にオンラインで開催されていた第9回アジア宗教者平和会議(ACRP/RfP Asia)東京大会が22日、大会宣言文(別紙参照)を採択して閉会しました。日本で初めて開かれた同大会には、開催期間中、21カ国から正式代表約120人を含むのべ約1500人(17日青年事前大会、18日女性事前大会も含まれる)が参加。日本からは、庭野日鑛・立正佼成会会长=世界宗教者平和会議(WCRP/RfP)日本委員会会長=、植松誠・日本聖公会主教=同日本委理事長=をはじめ同日本委に参画する各教団の役職者や会員、市民、報道関係者などが参加しました。

大会では、『行動するアジアの宗教コミュニティ:誰一人取り残さない、健やかで豊かなアジアの平和をめざして』のメインテーマに基づき、ビジネス会議を含む五つの全体会議と分科会、特別セッションなどが行われました。

全体会議では、「フラッグシップ・プロジェクト」(全体会議Ⅱ)と「新型コロナウイルス感染症とアジアの宗教コミュニティ:学びと復興」(全体会議Ⅲ)が議題に取り上げされました。全体会議ⅡではACRPが取り組んできた五つのフラッグシップ・プロジェクト「人身取引防止」「いのちの尊厳教育」「平和構築と和解」「環境問題」「青年リーダー育成」のそれぞれについて成果と課題が発表された上で、今後5年間のプロジェクトの推進に向けて意見を交換。行動志向、アジアの独自性の尊重、宗教間協力の推進といった方向性も確認されました。また、ACRPフラッグシップ・プロジェクトの推進に対する同日本委からの3000万円の寄付が、植松同日本委理事長から発表されました。全体会議Ⅲでは、日本からは武見敬三参議院議員=WHO(世界保健機構)ユニバーサルヘルスカバレッジ(UHC)親善大使=と西原廉太立教大学総長=同日本委平和研究所副所長=がスピーカーを務めました。コロナ禍の影響で宗教界でも意識や行動の変容が求められたこと、社会的に立場の弱い人ほど大きな負荷がかかること、国際的なネットワークとローカルな行動力を有する宗教の役割などを確認。開発途上国でのワクチン接種の遅れなども問題とされ、国境を越えた共通の課題に対する連帯の重要性が指摘されました。

分科会は『平和と人間の尊厳の教育』『弱い立場の人々の人権と幸福』『社会の共存と調和のための和解』『多様化する社会における開発と環境』のテーマ別に実施され、活発な議論が展開されました。この中で、『社会の共存と調和のための和解』には、「ミャンマー」「朝鮮半島」のそれぞれのセッションが設けられました。ミャンマーのセッションでは、現地の宗教者や専門家から、市民が置かれている厳しい状況と継続的に人道支援を行っていく必要性が強調されました。同国では、WCRP/RfP国際委員会と同ミャンマー委員会により、政府高官、軍幹部、宗教指導者、国連職員、民族指導者などによる対話の場として「ミャンマーの国民和解と平和に関するアドバイザリー・フォーラム」が設置されていること

も報告されました。現実的に“ピンチ”な状況を、多様性の中での連帯と共存の“チャンス”ととらえていく視点や宗教間だけでなく市民とも協力関係を結んでいく可能性も示されました。

特別セッションの「アフガニスタンセッション」では、今年8月の政権交代以前から現地で人道支援活動を続けているNGOのリーダーたちが、困窮する市民の状況を説明。食糧など必要物資を届ける緊急的な人道支援活動と平和構築に向けたサポートの重要性が語られました。一方で、現政権との対話の中で、人道支援活動の継続を要望する声が伝えられることも報告されました。席上、アフガニスタンの市民との連帯を示す「アフガニスタンメッセージ」が満場一致で採択されました。

22日の閉会式では、ACRPの新役員が公表されました。新しい実務議長にはデスマンド・カーヒル師(オーストラリア、キリスト教)=前副実務議長=、事務総長には篠原祥哲 WCRP/RfP 日本委事務局長が選出されました(略歴は別紙参照)。この他、日本からは杉谷義純・天台宗妙法院門跡門主=同日本委評議員=が共同会長に、共同会長を務めていた庭野立正校成会会長は名誉会長に就任しました。

植松同日本委理事長の「感謝の辞」に続いて、宣言文起草委員会委員長の西原立教大学総長らが大会宣言文を朗読。アジアの和解と平和に向けて宗教者が役割を果たすために、議論から導き出された12の提言の実行を決意する宣言文が発表されました(※宣言文の骨子は満場一致で採択されましたが、今後表現等が若干変更される可能性があります。最終版は、ACRPやWCRP/RfP日本委員会のウェブサイトにアップされます)。

引き続き、神谷昌道 ACRP シニア・アドバイザーが「ビジョンメッセージ」を発表。ACRPの新たな5カ年計画の六つの目標を「フラッグシップ・プロジェクトの推進」「効果的なパートナーシップの構築」「男女共同参画の推進」「宗教間教育の推進」「IRC(諸宗教評議会)開発への関与」「資金調達の促進」と示しました。このあと、篠原新事務総長が就任のあいさつを行いました。

最後に、諸宗教の祈りが捧げられ、大会は幕を閉じました。

事前にご登録いただいた同大会ウェブサイトから、大会の日報をご覧いただけます。
サイト内の「資料をダウンロードする」ページをご覧ください。



第9回 ACRP 東京大会ウェブサイト

https://reg31.smp.ne.jp/regist/switch/00051c000746Gbtw79/acrp_entry

※大会の写真をご入用の方は、広報担当（三善、木村）までご連絡ください。

以 上

<お問い合わせ先>

(公財)世界宗教者平和会議(WCRP/RfP)日本委員会(東京都杉並区和田2-7-1 普門ゲンセンター3階)
広報担当:三善(携帯080-2003-2031)、木村(携帯090-2408-7117)

【ACRP 新実務議長 略歴】



デス蒙ド・カーヒル

オーストラリア・メルボルンにある RMIT 大学のグローバル都市社会学部・異文化研究の名誉教授。2000 年より WCRP/RfP オーストラリアの議長、2008 年より共同会長を務め、2010 年にはエリザベス女王よりオーストラリア勲章を授与されている。

【ACRP 新事務総長 略歴】



篠原 祥哲 (WCRP/RfP 日本委員会事務局長)

立正佼成会会員。1996 年立正佼成会入職後、学林、一食平和基金事務局などを経て、2005 年から世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会に勤務。軍縮、気候変動、難民、開発、人権など問題を担当。2011 年～16 年、WCRP 仙台事務所所長として東日本大震災の復興支援に従事した。1998 年英国ブラッドフォード大学大学院平和学修士課程修了、2014 年東北大学公共政策大学院卒業。2021 年東京大学総合文化研究科博士課程修了。博士 (国際貢献)。趣味はサッカー、2015 年日本サッカー協会コーチ C 級ライセンス取得。

世界宗教者平和会議 (WCRP／Religions for Peace=RfP)

WCRP/RfP は、1970 (昭和 45) 年に 39 カ国から諸宗教の代表者約 300 人が集まり、京都で第 1 回大会を開催したのが始まり。諸宗教の連帯によって平和活動を推進する国際組織として、国連経済社会理事会 (ECOSOC) の諮問資格を有し、1999 (平成 11) 年からは NGO の最高資格である総合協議資格を取得しています。世界大会は当初から数年ごとに、欧州、米国、アフリカ、豪州、中東など世界各地で開催。現在、世界 90 カ国以上にネットワークを有し、諸宗教間の対話・協力活動という特徴を生かして紛争和解や軍縮、難民支援、開発援助、環境保護などの平和活動に取り組んでいます。

日本委員会は、1972 (昭和 47) 年に日本宗教連盟の国際問題委員会を母体として発足し、2012 (平成 24) 年 4 月より公益財団法人として活動を展開しています。

アジア宗教者平和会議 (ACRP／RfP Asia)

ACRP は WCRP の中でもアジア地域を中心とした宗教者のネットワーク。1976 年にシンガポールで開かれた第 1 回大会を機に、WCRP/RfP における初の地域委員会として発足しました。以来、諸宗教による連帯・協力を通して、アジアにおけるさまざまな問題に取り組んできました。5 年から 6 年おきに大会を開催し、2014 年 8 月には韓国・仁川市にて第 8 回大会を開催。その時に採択された宣言文に沿って、近年はアジアや世界の諸課題に向け、これまでの対話・協力を基に「行動する宗教」を志向。現在は、「人身取引防止」「いのちの尊厳教育」「平和構築と和解」「環境問題」「青年リーダー育成」の 5 つの「フラッグシップ・プロジェクト（重点実施事業）」に重点を置き、活動を推進しています。



DRAFT

東京宣言

第9回大会

アジア宗教者平和会議(ACRP) /RfP アジア

前文

2019年以降、人類のあらゆる活動領域に悪影響を与えていたCOVID-19のパンデミックは、依然として地球市民に対する厳しい挑戦となっている。信仰共同体の人々もその影響を免れない。COVID-19により、教会、寺院、モスクやその他の礼拝所に集まることができなくなり、重要な儀式や信仰の伝統を実践する方法の変更が余儀なくされている。

RfP アジアとも称されるアジア宗教者平和会議 (ACRP) の第9回大会は、当初、2020年10月に日本の東京で開催され、1970年に日本の京都で開催された世界宗教者平和会議 (WCRP/RfP) 第1回世界大会の50周年を記念する予定であった。この会議は COVID-19 の影響で1年遅れたが、この遅れは決して後退ではなかった。ACRP のビジョンと使命に共感する私たちは、この延期が、現場での具体的な行動を遂行するために私たちの決意とコミットメントを再確認する貴重な機会となった、と確信している。

第9回東京大会は、2021年10月17日から22日まで東京を中心の舞台として、『行動するアジアの宗教コミュニティ：誰一人取り残さない、健やかで豊かなアジアの平和をめざして』というテーマのもと、初めてオンライン (ZOOM) で開催された。今回、WCRP/ RfP 日本委員会が初めて主催した東京大会には、アジア太平洋地域の21カ国から、さまざまな宗教共同体を代表する正式代表者約120人を含む約1500人がこの6日間に参加した。ACRPは、東京大会のオンライン開催に協力をいただいた開催国の委員会に深く感謝する。

アジアにおける私たちの挑戦

アジアは依然として平和ではなく、アジア諸国間の更なる和解のための真の努力が必要である。アジアの人々は、現在も進行している軍拡競争と、核兵器がもたらす世界的な脅威に深刻な懸念を抱いている。朝鮮半島は、第二次世界大戦の最後の残像として、いまだに分断状況にある。国家内、国家間の紛争や対立は、アジアの多くの地域で見られる。東京大会の参加者は、アジア太平洋地域における紛争や流血を懸念している。

アジアでは明らかな経済成長が達成されているものの、多くの国々が経済不況や貧弱なガバナン



スに苦しんでおり、その状況下で貧富の差が拡大している。アジアでは、無生物、有生物を問わず、あらゆる形態の生命（いのち）の尊厳が侵害されているため、あらゆる形態の生命（いのち）の尊厳に対する意識を高める教育が強く求められている。人権を侵害されている人々の声を明確に聞くべきである。人身売買、児童労働、児童婚や慣習的に生み出されている間違った行動は、ジェンダーの不平等をもたらし、人間の尊厳を侵害している。アジアでは、宗教、民族、文化の多様性が危機にさらされ、過激主義によってさらに悪化している。アジアでは、生命（いのち）の尊厳への新たな侵害となる環境の悪化が広がっている。気候変動は現在、気候「危機」と表現されていて、人類の生存と発展に厳しい課題を突きつけている。すべての国が気候危機の犠牲になっている。

我々のアジアへの再確認

東京大会は、集中的な議論を経て、豊かな宗教的・文化的遺産を持つアジアが、前述の課題とさらには脅威に立ち向かう準備ができていることを確認した。アジアの人々は、違いや多様性を深く尊重し、多元的な考え方を十分に大切にし、我々の中に家族のような感覚を共有していることに気づくこととなった。そして、人間の心に共鳴を呼び起こし、お互いに分かち合い、思いやることで一つになろうとするアジアの精神性を誇りに思っている。このため、アジアの美しさは、人間関係や自然との共存において、忍耐力、寛容さ、一体感、包容力といった言葉に象徴される。

バーチャルな第9回大会は、ACRPを具体的な行動へと進化させる歴史的な転機となった。それに加え、東京大会は、1) 人身取引、2) あらゆる生命（いのち）の尊厳に関する教育、3) 紛争の解決と和解、4) 開発と環境、5) 青年のリーダーシップの向上、などの優先プロジェクトで構成されるACRPのフラッグシップ・プロジェクトを紹介する場にもなった。ACRPの献身的なメンバーが語る成功物語や困難な経験談は、大会参加者に対して、我々のアジアを、すべての人々にとって、より包括的で、健全で、豊かで平和な居住地へと変革することを提唱するモチベーションを与えた。私たちはまた、様々なプログラムやプロジェクトの実施に向けて、言葉だけではなく、行動していくべきであると確信した。

振り返ってみると、東京大会の準備は、2015年に国連で採択されて広く知られている「持続可能な開発目標（SDGs）」に由来する1つの重要な原則から始まった。それは、“誰一人取り残さない。”である。“包摂的”という言葉は、この原則に由来する4つの分科会のサブテーマに含まれている。東京大会は、基調講演や全体会議、分科会での議論が建設的に活かされ、より良いアジアに貢献するための原動力となる方法や手段が示される場となった。

第9回ACRP東京大会の参加者である我々は、ACRPが多宗教間組織であり、平和、宗教的調和、地



域社会の結束のために、アジア太平洋地域の信仰の伝統や、宗教的コミュニティの間で共通の行動を促進していることを、ここに再確認する。地域、国家、地方レベルでの平和のための多宗教間協力はACRPの特徴である。ACRPの活動を通じて、アジアの多様な宗教コミュニティは、あらゆる生命の尊厳の促進、公正で調和のとれた社会の構築、持続可能な開発目標の推進により、平和と和解をはじめ「深く浸透し、広く共有された」道徳的価値を見出している。ACRPは、このような精神的・道徳的な理想を具体的な行動に移していきたいと考えている。

女性事前大会では、女性は変化の担い手であるが、ジェンダー不平等、経済的不公正、人権侵害などの課題に直面していることが強調された。これらの課題を克服するための具体的なステップとして、男女全てにジェンダーの権利に関する教育を行い、社会や政府のすべての階層で意識向上と能力開発を行うことが挙げられた。ここには、ソーシャルメディア・プラットフォームの規制された使用も含まれている。

ACRPは、我々が直面している問題に対処する上で若者が果たす重要な役割を評価するとともに、彼らが我々のミッションの重要なパートナーであると考えている。我々は、継続して若者を励まし、力を与え、我々の活動に参加させることを約束する。我々は、若者が参加するためのプラットフォームを作り、彼らのプロジェクトやプログラムをサポートすることを約束する。

第9回大会は、これまでの具体的な活動の成果を再確認する場であることを踏まえ、フラッグシップ・プロジェクト、COVID-19、アジアの宗教コミュニティについて、相互に鼓舞されるひらめきに満ちた意見交換を行った。例えば、我々の活動の背景にはアジアの精神性と靈性が存在している。何時パラダイムシフトが起きても、信仰コミュニティの人々は弱者や傷ついた人たちに適切な支援を行うため、その変化に対応することができる。また、アフガニスタンで人道支援を行っている人々の声を聞き、ACRPがアフガニスタンの人々のために何ができる、何をすべきかを学ぶことができる。

アジアにおける我々の共通の行動への呼びかけ

全体会議や分科会での集中的な議論を経て、非常に有益で実効的な提言が提出された。ACRPのメンバーである我々は、以下の提言を実行することをここに決意する。

1. ACRPのフラッグシップ・プロジェクトである、1) あらゆる生命（いのち）の尊厳に関する意識向上、2) 人身取引防止、3) 平和構築と和解、4) 環境保護、5) 青年リーダ育成を、宗教間の対話と協力を通じて推進、提唱、実施する。
2. ACRPの新行動計画に明記されているプログラム、プロジェクト、活動を、宗教間の対話と協



力を通じて、全面的に確約・実施する。

3. フラッグシップ・プロジェクトを遂行するための資金を調達し、今後設立されるアジアトラスティーズを活用する。
4. 若者は未来への「希望」であると同時に現在の「希望」でもあるため、あらゆるレベルの意思決定プロセスに若者のメンバーを参加させる。
5. 女性は男性と互いに補完し合うので、変化をもたらす者として、全てのレベルの意思決定プロセスに男性と共に参加させる。
6. 韓国宗教人平和会議（KCRP）と協力し、朝鮮宗教人協議会（KCR）を通じて、朝鮮民主主義人民共和国の人々のために人道的な活動を行う。南北朝鮮間の平和条約締結のためのプロセスを推進する。朝鮮半島の平和を達成するために、平和教育を提唱する。
7. アフガニスタン、ミャンマーなど我々の人道的支援を必要とする国々の平和構築と和解に全力で取り組む。
8. COVID-19 パンデミックのさらなる拡大を防ぐため、世界宗教者平和会議（WCRP/RfP）と協力し、ワクチンの公平・公正な分配を提唱・推進する。
9. 核兵器廃絶のための活動や、原子力の平和利用に関する賛否両論の議論に参加し、防衛予算を平和関連活動推進のための資金に転換することを提唱する。
10. 政府、国際機関、宗教コミュニティと共に、包括性、一体性、環境保護に関する平和的対話を提唱し、平和ビデオ、ポジションペーパーの発表、集会、祈り、会議、セミナー、ウェビナーなどのソーシャルメディアを積極的に活用する。
11. SDGs に沿ってグローバルなネットワークを構築・参加することにより、連帯、協力を促進し、優良事例を共有する。
12. 宗教間の対話と協力を積極的に行い、宗教コミュニティの社会的責任を再認識する。そして、平等、尊敬、包括性、相互学習の精神を提唱する。ACRP の原則と戦略的行動を実行するために具体的な行動をとり、気候変動に共同で対処する合意に達し、環境を保護し、健全な生態環境を作る。地球上のすべての生命の共同体を共同で構築し、クリーンな世界を将来の世代に残す。

ACRP は、今後 5 年間の ACRP フラッグシップ・プロジェクトの実施のため、WCRP/RfP 日本委員会から 30,000,000 円（約 273,000USD）の寛大な寄付をいただいたことに大変感謝する。

ACRP 第 9 回大会（バーチャル）により採択。

2021 年 10 月 22 日